

【基本施策 9】子ども・若者のいきる力を育む(「SOSの出し方教育」等)

- 1 教育部門と連携し、子ども・若者のこころの健康づくりや「いのちの教育」「SOSの出し方教育・SOSの受け止め方講座」を推進します。
- 2 家庭における、子ども・若者の自殺対策に関する知識の普及啓発に努めます。

次世代を担う子ども・若者への自殺対策は、基本理念である「誰も自殺に追い込まれることのない地域の実現」に向けた長期的で重要な取組です。

子どもの頃から、自分を大切にすることや相手への思いやりが育まれるよう、家庭・学校・行政・関係機関が連携し、それぞれの役割を持って推進するとともに、「いのちの大切さ・尊さ」「SOSの出し方・受け止め方」「精神疾患への正しい理解や適切な対応」等を学ぶ機会を提供します。

(1) 教育部門と連携した対策の推進

ア 「いのちの教育」「SOSの出し方教育」等の推進

困難に対面した際に、乗り越えられるこころを育てるには、自尊感情を高めることが重要です。文部科学省による「子どもに伝えたい自殺予防(学校における自殺予防教育導入の手引)」等を参考に、児童及び生徒に対し「いのちの教育」や「SOSの出し方教育」を実施していくことで、困難を乗り越える手段を身に付け、自分だけでなく大切な友人や家族等、周囲にいる人の変化に気づける力を養います。併せて、SOSを見逃さない環境づくりを行うため「SOSの受け止め方」を学ぶ講座を教職員や教育関係者等に対し、実施していきます。

また、いじめ対策やSNSの利用方法等子どものこころの健康づくりや安心・安全に暮らすための啓発を、各学校で、学年毎のテーマをもち、継続して取り組んでいきます。

イ 教職員や保護者、支援者との情報共有

教職員や保護者、相談員、メンタルフレンド等、子ども・若者を支える支援者が協力して対応していくことが不可欠です。学校や家庭だけで支えるのではなく、地域に「信頼できる大人」を増やすため、教職員や学校関係者向けのゲートキーパー養成講座やPTA、保護者向けの自殺対策に関する講演会の開催等、関係機関や庁内各課が協力して取り組み、相談機関ネットワーク等の情報についても伝え

ていきます。

また、鎌倉版コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりを推進し、地域全体で子どもたちを見守り、学びや成長を支えていくことを目指していきます。

ウ 人権意識の向上と豊かな心の育成

家庭・地域と連携した、いじめ・暴力行為等を生まない児童・生徒指導を推進します。

エ 児童生徒向け相談先一覧の配布

児童、生徒が困ったときに相談できる相談先の一覧を作成し、配布します。

(2) 家庭・地域における自殺対策への普及啓発

ア 乳幼児期からの愛着形成に関する普及啓発

子どもたちが自尊感情を育めるよう、母子保健事業や子育て支援事業において、愛着形成に関する普及啓発を行います。

イ 思春期保健に関する普及啓発

思春期に自己の確立やいきる力を育んでいけるよう、保護者や関係者向けに普及啓発を行います。

また、子どもたちがいのちの大切さ、自分の将来や生き方について考えていけるよう小学校、中学校、高等学校で講演会等を開催し、普及啓発を行います。

ウ 地域ぐるみの子育てに関する普及啓発

地域の子育て支援団体等と連携し、支援者や子育て経験者への普及啓発を行い、子育て支援を通して、地域の子育ての輪を広げます。

(3) 地域における若者への支援

ア 青少年の居場所づくり

令和4年度に実施した「中高生の意識と居場所に関するアンケート」によると、居場所の数が増えるほど自己肯定感が上がっていくことが分かっています。青少年のための自習スペース「わかたま」や鎌倉青少年会館の環境の充実や青少年が様々な活動に参画できる仕組みづくりに努めます。また、不登校傾向にある児童生徒の孤立化を防ぐため、フリースクール等、居場所に通う際の支援を行います。

イ 就労や自立に不安がある人への支援

働くことや自立すること等に不安や悩みを抱えている人やその家族を対象に、関係機関と連携してセミナーや個別相談会等を開催し、支援を行います。